

**令和2年度 調布市立第三小学校 学校経営計画（学校長 辻 久恵）**

学校の教育目標	
◎情操の豊かな子ども（重点）	○自主的に学ぶ子ども ○明るく健康な子ども
目指す学校像(ビジョン) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
<p>○児童にとって 満足感・達成感・安心感のある学校→自他の成長を互いに認め合い、一人一人の子どもの居場所がある学校</p> <p>○保護者・地域にとって 親しみと信頼のある学校→誠意ある対応をするとともに、情報を発信する学校</p> <p>○教職員にとって やりがいと充実感のある学校→切磋琢磨し、教職員・児童の伸びが実感できる学校</p>	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	<p>○児童は、明るく素直であいさつもよくできる。さらに自尊感情を高め、情操豊かな児童の育成に努める。</p> <p>○児童は、何事にも前向きに取り組み学習規律もほぼ備わっている。3つの柱①知識及び技能②思考力・判断力・表現力等③学びに向かう力・人間性等の資質・能力の育成を目指す。</p> <p>○児童は、日常的に運動に親しんでいる。課題となる握力、投力を強化し、さらなる体力向上を目指す。</p> <p>○保護者・地域は、大変協力的で、力を合わせて児童の育成を図っている。さらに信頼関係を築いていきたい。</p> <p>○教職員は熱心でチームワークもよい。さらに切磋琢磨しながら力量を高めていく気風を構築したい。</p>
中期的な経営目標	
<p>① 特別支援教育の充実を図り、規範意識を高め、互いに認め合い支え合う子どもの育成</p> <p>② 自ら学ぶ姿勢や習慣を身に付け学ぶ楽しさを実感する子どもの育成</p> <p>③ 健康についての正しい知識に基づき自分で自分の健康管理をする子どもの育成</p> <p>④ オリンピック・パラリンピック教育推進校・アワード校として、国際社会に生きぬく子どもの育成</p> <p>⑤ 保護者・地域・関係諸機関との連携により生涯にわたって自尊感情を高め、自己実現を目指す子どもの育成</p> <p>⑥ 正しくかつ楽しく食事をすることを通して心身の健全な発達を実感する子どもの育成</p> <p>人・組 OJT、OFFJT を通して実力をアップさせるとともに、組織の一員として力を発揮できる「チーム三小」を創り上げる。</p>	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 年間6回道徳科の研究授業を行い、「考える道徳」「理論する道徳」の実践を通して、自己を見つめる児童を育成する。	① 年間指導計画の改定版により「学校での学習」「家庭での学習」を連動させ主体的に考える力、習熟度を高める学習対価を確立する。	① 3年生以上は保健領域で、1, 2年生は学級活動や生活科と関連させた新型コロナウイルス感染症対策の指導を年3回以上行う。
② 「SOS の出し方」「SNS 東京ルール」に加え、学校再開時の心のケア等の取組を通し自分も友達も大切に作る児童の育成を図る。	② 休校中に行ったズームを使った「オンライン朝の会」や動画の発信による学習支援の体験を生かし、タブレットとプロジェクターを1日1回以上活用する。	② 「新しい生活様式」の徹底、及び新型コロナに対する体育に関する計画のもと、3密を避ける、用具の共有を極力避ける点に留意し安全な学習を行い、体力向上を図る。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 学校アンケートで「豊かな心」の項目で肯定的な回答90%以上を目指す。	① 学校アンケートで、「学力」「家庭学習」の項目で肯定的な回答90%以上を目指す。	① 学校アンケートで「新型コロナウイルス感染症対策」の項目で肯定的な回答90%を目指す。
② いじめ解消100%を目指す。	② ICT 機器の活用により「授業が楽しい」と肯定的な回答90%を目指す。	② 学校アンケートで「体力」の項目で肯定的な回答90%以上を目指す。
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 オリンピック・パラリンピック教育の推進	5 保護者・地域との連携	6 食育の推進
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 利光ヶ丘・パラ利光ヶ丘教育推進校及びアワード校の指定を受け、ゲストティーチャーを3回以上招きパラハート調布のもと5つの資質育成を図る。	① オンライン保護者会や週1回以上校長通信及びホームページをアップして情報発信に努める。	① 保護者と児童が食に関心をもつように毎日給食写真と一ロメモをホームページにアップする。
② 「世界のお友達プロジェクト」の一環として世界の料理に取り組む。	② 「地域学校協働本部」のコーディネーターを中心に地域全体で児童を育成する体制を整備し、その状況を学期に1回以上「地域学校協働本部だより」で発信する。	② 新しい配膳、食事の仕方を定着させるとともに、教職員のアレルギーシミュレーション研修、調理員、栄養士、担任、管理職によるアレルギーチェックを毎日確実にを行う。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 学校アンケートで「利光ヶ丘・パラ利光ヶ丘」の項目で肯定的な回答90%以上を目指す。	① 学校アンケートで「情報発信」の項目で肯定的な回答90%以上を目指す。	① 学校アンケートで「食育」の項目で肯定的な回答90%以上を目指す。
② 10か国以上の国の料理に親しむ。	② 学期に1回以上おたよりを発行する。	② アレルギー事故ゼロを目指す。

人材育成・組織運営
<p>○学年集団、各部会において主幹教諭、主任教諭を中心にOJTの計画・実践を通して互いに学びあう教師集団を築き上げる。</p> <p>○管幹(管理職と主幹教諭)会議、運営委員会、学年主任会を活用し、経営方針の浸透及び教職員の考えの把握により組織的にトップダウン、フォローアップのバランスを保つ。</p>